

横浜市小学校社会科研究会

4学年部会

研修会記録

第 3 号

令和5年9月6日

横浜市小学校教育研究会

会長 濱田 哲也

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 本間 宏志

【提案日時】

8月1日(火)

提案 内藤 勝幸 先生(山下小)

【会場】

フォーラム南太田

司会 小池 悠 先生(希望ヶ丘小)

記録 松園 和也 先生(平沼小)

1 提案内容 単元名

単元名 「水害に備える山下のまち～もしもに備えて、わたしたちにできること～」

2 提案者より

視点①子どもが問いや見通しをもち、主体的に学ぶ単元づくり

子どもの問いを生かし、単元の見通しがもてるような学習計画を立てる。

- 子どもの認識のすれを生み出す資料提示の工夫をしたことで、問いが生まれ、それを生かして単元を見通す学習問題をつくることができた。
- 子どもへの追究意欲の支援が不足だった。

自らの学びを自覚するために、学習内容と学習方法のふり返りを工夫する。

- 毎時間のふり返りで、次時の学習問題についての予想を立てさせたことで、どのように学習したらよいか学習方法を選択できる子どもが増えた。
- 自らの学習を見つめ直すようなふり返りは、一部の児童に限られた。

視点②個を生かし、協同的に学びを深める授業づくり

個の見取りを大切に、子どもの思考をつなげていく。

- 授業や隙間の時間の対話を通して個を見取ることで、より正確に子どもたちの考えや実態を適切に見取ることができた。
- 子どもの考えを座席表で整理し、似た考えの子を把握したり、授業展開をあらかじめ予想したりしたことにより、子どもたちが一人ひとり置かれた状況の違いを意識できるような本時展開をすることができた。
- 様々な状況に置かれた地域の人たちのことも踏まえて、自分たちにできることを考えていく展開を考えていたが、「一時避難場所があって安心」というところに落ち着いてしまった。本時目標に迫るために、そもそもこの展開や資料が適切であったかについても検討したい。

2 協議会

グループ協議

- ・自分事になっていたが、共助や減災につながる資料が必要だった。
- ・ハザードマップの確認だけではなく、避難ルートに着目して考えると共助の視点が得られたのではないか。
- ・家族の背景も見取りながら、児童の意見をつなげることができていた。
- ・児童と対話しながら、考えを丁寧に見取っていたから意図的指名ができ、全員の考えが深まっていた。

全体協議

- ・自分たちにできることは学習の足跡をもとに考えられていたのでよかった。
- ・「安心」という言葉を正しく捉えられていなかったのではないか。車いすに乗っている〇〇さんも?のように、具体的にイメージできると安心に落ち着かなかったのではないか。
- ・1児「助け合いも大事だと思う」助け合いとはどういうことかを問い返すとよかった。

<講師の先生より> 西富岡小学校 校長 黒田 由希子 先生

子どもたちへのリスペクトを感じた。子どもたちを生かすために、どうかかわっていけばよいか考えて授業づくりができていた。子どもの思いと事実のずれがマッチしていた。ハザードマップのおかげで自分事として考えることができていた。学習の見通しが明確だった。学習方法についてもよく考えられていた。本時、1児の「助け合いも大事だと思う」という発言に聞き返すことができるとよかった。

<講師の先生より> 教育課程推進室 主任指導主事 森 圭一朗 先生

選択・判断の学習はいかに自分ごとになるかが大切。S（地域防災拠点運営委員）さんの話は子どもたちにとって納得しやすいものなので、思考をゆさぶりにくい。最後まで話をしてもらわず、子どもたちが考える余地を残しておくことが必要。自助や共助は行動化だけが大切になるわけではない。意味のある意識化ができるかどうかを大事。4年生は自助（自分を助けること）することが共助（人のためになる）という捉えでよい。

文責 佐藤 安世（北綱島小学校）